



商店街

子ども



高齢者



祭り



ジェンダー



地域の未来に向かって
共に歩まない？



かながわユースフォーラム2021 報告書

主催 かながわユースフォーラム実行委員会2021
(神奈川大学社会教育課程 学生有志)

学生の自信と成長のチャンスを見届けて

コロナ禍の今、若者たちが多様な人との交流の機会や体験の場が極端に失われています。それどころか、若者の孤独感は深まり、「未来に希望が持てない」不安の声は増しています。

こうした只中でも、2020年・2021年と「かながわユースフォーラム」がオンライン実施できたこと、「成長の機会」を与えて頂いたことに、実行委員長としてお世話になった全ての方に感謝申し上げます。

さて、ここで改めて「かながわユースフォーラム」とは何か、「若者参画」の考え方や「大人アドバイザー」のあり方を示しておきます。

「かながわユースフォーラム」とは、ユース（主に大学生）が「かながわ」をフィールドとした地域課題を見つけ出し、ユースに何ができるのか、本気で考える若者参画型交流事業です。

一般に参加は「行事や会合に加わること」に対し、参画は「計画立案に加わること」を指します。「若者参画」は、若者が企画や運営プロセスを体験的に行う参画型学習です。参加型学習は、「一人ひとりの動機づけを大切に、自発的参加を促し、体験を重視したグループ力動性を活用した学び」を重視します。したがって、若者たち自身が、様々な地域課題を見つけ出し、テーマに基づき協議を行う、ヨコの関係を重視した相互交流型の事業なのです。

同「フォーラム」において、若者である学生が参加・参画する機会は、主に5つあります。①参画層（事業テーマの設定をはじめ、企画・運営・評価の全てを1年かけて実施すること）、②参画層（分科会等の企画・運営・評価を行うこと）、③参画層（学生アドバイザーは、既に活動を経験した学生が初めて取り組む学生にアドバイスを行うこと）、④参加層（当日参加後に関心を持って、次のフォーラムになり得る潜在的活動層）、⑤参加層（当日の参加のみに留まる層）。現状において、上記の①～③の参画層は、主に神奈川大学社会教育課程の学生たちが、授業の一環で取り組んでいます。

一方、学生たちの事業運営の伴奏者として、適宜アドバイスをする「大人アドバイザー」をお願いしています。大人は、学生に対して「口出しをしない」「アドバイスのみにとどめる」「温かい眼差しでサポートする」という暗黙の了解の下に進められます。根気よく学生たちの機が熟す時を待ち、地域課題を明確にするプロセスを見届けます。しかし、学生を「待つ」という行為は、想像以上に根気のいる我慢時間となります。学生からの連絡待ちでヤキモキされていた方、本当にすみません！経験不足から、学生が動き出すのに躊躇して蹲っていることがあります。そんな時、背中を押す「やさしい言葉」をお願いできれば幸いです。

こうした事業の前進は、独立行政法人青少年教育振興機構（内外学生センター）で主催した「全国学生ボランティアフォーラム」があります。私は、このフォーラムに数年間、辛口アドバイザーとしての経験があります。また、全国各地で地域独自の若者事業が展開されているゆえ、「かながわ」でも実現できるのではないかと考えたのです。

大学生にとって、体験の場づくりと役割が大切だと思っています。自由に発言するチャンス、世代を超えて多様な人々に出会えるチャンス、学校以外の大人にアドバイスを受けるチャンス、相互に協力し合うチャンス、同志が社会課題を真剣に議論し合うチャンス、お互いを認め合うチャンスなどが考えられます。この小さなチャンスが、学生の自信と成長につながると確信しています。やがて社会変革のさざ波をおこしていくかもしれません。

これからも、学生たち一人ひとりの潜在能力と可能性を信じて、応援し続けます。

引き続き、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

かながわユースフォーラム実行委員長
齊藤ゆか（神奈川大学社会教育課程、人間科学部教授）



イラスト：ゆき

ユースフォーラムとは

「かながわユースフォーラム」は、地域・社会課題の解決に向けて、社会資源の一つである学生と大学がどう関われるのかを模索する「コーディネート機能」を意図したイベントです。神奈川大学生を中心とした実行委員会は、3年生がプレイヤーを、4年生がサポーターの役割を担っています。1年ごとに違う役割を経験することで「コーディネート」を行う際に不可欠なプレイヤーの視点や想いを体験します。フォーラムが単なる若者による一過性のイベントではなく、その企画・実行をつうじて個人的な成長も遂げながら、「ソーシャル・コーディネーター」としての資質を磨く場として機能しています。



総合ディレクター
長浜洋二

イラスト：ゆき

学生代表の挨拶

かながわユースフォーラムを通して、改めて「つながり」の大切さを実感しました。特にコロナ禍で身動きがとれない中、自分の本当の気持ちに蓋をし、何も手につけずにやりたいことを先延ばしにしていたら、いつまで経ってもモヤモヤしたままで…そんな時に出会ったのが、かながわユースフォーラムでした。企画の準備から当日までに関わってくださった方々、皆さんの支えがあったからこそ想いをカタチにでき、最後までやり切ることができたと思います。人に頼ってもらうことは嬉しいけど、自分も頼ってもいい仲間に出会えたことの方がもっと嬉しかったです。

やりたいこと（目的）は人それぞれだけど、みんなが何かしたいという気持ちは変わらない。ちょっとした共通点を見つけるだけで、その個々の点（やる気）が繋がって一本の線（一つの目標）になっていくのではないかと信じています。互いに助け合って、仲間と一緒に「楽しさ」を見つけていけたら最高です。

「やりたい」「好き」「おもしろそう」少しでも興味のあることはカタチにして、動き出せる人をどんどん増やしていきたい。そして、今後は人と人を繋ぐ力や人のやる気スイッチをONにする力を身につけるためにも、全ての「つながり」を大切にしていきたいと思います。



神奈川大学
人間科学部人間科学科3年
高久李美

関わった学生たち



事業内容

<テーマ>

若者と歩む地域の未来

○解決したい地域課題

1. 地域内で起きている様々な問題を敏感に捉え、行動する若者が少ないという課題
2. 新型コロナウイルス蔓延による影響により、学生と地域の交流・連携が弱まっているという課題
3. 地域活動に関心はあるが、一方で参加する機会が少ない学生が多いという課題
4. 地域での活動に関して、若者の求める情報が足りていないという課題
5. 様々な地域での活動経験や、新しい出会いを求める若者が多いという課題

○事業の目的

本事業は、地域との交流が減った若者（ユース）を対象に、コロナ禍における地域の課題を探り、若者と地域の「希望」を見出すことを主な目的とする。

特徴は、学生を主体（若者による若者のため）の参画型交流事業である。

○事業の内容（予定 コロナ禍で変更あり）

「若者と歩む地域の未来」をテーマに5つのステップで実践していく。

- Step 1 コロナ禍における地域と若者の課題を出し合う（4月/授業）
Step 2 地域を歩きながら課題を共有し合う（歩く・交流）（5月～6月/自主）
Step 3 コロナ禍でも若者ができる地域実践を探る（6月末～7月上旬/イベント）
Step 4 若者と地域の「希望」を見い出す（同上）
Step 5 若者が地域でボランティア活動始める（夏以降～）

○学生の参画メンバー

学生代表：高久李美（神大3年）、副代表：土屋孝太（神大3年）、3年：17名、2年：2名、4年：9名

○大人のアドバイザー

実行委員長：齊藤ゆか（神大教授）

全体ディレクター：長浜洋二（モジョコンサルティング合同会社代表） 他、多数。（敬称略）

○主催団体：かながわユースフォーラム実行委員会

○協力団体

社会福祉法人 神奈川区社会福祉協議会
片倉三枚地域ケアプラザ・六角橋地域ケアプラザ
三枚地区社会福祉協議会
六角橋商店街連合会・六角橋自治連合会
NPO法人アクションポート横浜 ふれあいっこ三ツ沢
横浜市神奈川区役所
神奈川大学社会連携センター 資格教育課程

○タイムスケジュール

全体会 9：40～10：30

分科会 10：40～11：40

リフレクション 10：50～12：30



〈4年生からのサプライズ表彰式〉

全体会

若者と歩む地域の未来 ～新しい自分に出会えるはじめての一步～

○概要：生活が大きく変化したこの一年。その中でも心のモヤモヤに向き合い、地域で活動していた3人の学生をゲストに迎え、語り合う中で今の自分と向き合い、これからできることを考える。

メンバー：高久李美・高橋侑佑・坂松汐音（神大）、内山塔子（東京理科大学）、木村優吾（法政大学）

○学生アドバイザー：中島さえ、村松勇祐

○連携：NPO法人アクションポート横浜

○大人アドバイザー：高城芳之（NPO法人アクションポート横浜）

【学生の声】

オンラインでの活動のため、今回利用したツール「ZOOM」に慣れることからスタートし、バーチャル背景などを駆使してオンラインの強みをどう活かせるかを学ぶ事ができました。また、台本や打ち合わせといった事前準備の大切さを学びました。時間に余裕を感じていた時もありましたが、本番に近づくにあたって、焦りもあり余裕はありませんでした。特に、大人のサポートの方々やゲストスピーカーとの方々と打ち合わせは数回であった為、直前での変更があり、互いに余裕が無かったです。本フォーラムの当初の企画からは大幅に変更になった箇所も多いですが、リーダーやサポート(先輩方)の存在が大きく、当初に比べやる気にバラツキのあったチームが団結していく感じが感じ取れました。（文責：高橋侑佑 自治行政学科3年）



〈アイスブレイク：昨年一年を表す漢字〉

高齢者

～未知との遭遇！～若者と高齢者の出会い～

○概要：認知症について学び、私たち若者は何ができるかを考える。

身近な人に訪れるかもしれない認知症について知る機会とする。

○メンバー：濱田祐輔、高橋侑佑

○学生アドバイザー：佐々木和巳、石川稚子

○大人アドバイザー：

宮地悠希・本橋俊則（横浜市神奈川区社会福祉協議会）

東田樹治(三枚地区社会福祉協議会会長)

○連携：片倉三枚地域ケアプラザ

【学生の声】

全体を通して学んだことは地域の未来に歩むための1歩として何をすべきなのか現状を知った上で考えることでした。

高齢者のことと言うのなら認知症の現状です。私たち自身は

「認知症」という名前などの表面的な情報に関しては知っていましたが、ロバメイトフェスティバルの方々、ゲストスピーカーの方々と関わっていく中でフォーラムの高齢者分科会の中で何をすべきなのか、何が大事なのか、アイディアが多くできたことを今でも覚えています。「現状を知り、何をすべきか考え行動へと移す」簡単なようで難しいことです。どんな事柄に対しても共通して大事なことであり感じ、今回学んだことをフォーラムではない部分でも生かしていきたいと思います。

（文責：濱田祐輔 現代ビジネス学科3年）



〈ゲストスピーカーの鈴木さんと関口さん〉

祭り

～エイサー！～伝統的な祭り？新しい祭り？～

- 概要：祭りの現状、若者を知りたいこと
- メンバー：薬師川朋里、藤本幸、小野榛奈
- 学生アドバイザー：渡邊愁、大山奈桜
- 大人アドバイザー：原島隆行・菅野佐知子（六角橋地域ケアプラザ）
- 協力：森勤
- 連携：六角橋自治連合会

【学生の声】

全体を通して学んだことは、運営側の雰囲気は参加者に伝わることです。アンケート回答や当日のコメントを確認すると、運営側の仲の良さやお祭りの雰囲気が伝わったことがわかり、雰囲気作りは重要である事を学びました。また、当日までの時間配分や役割分担を早い段階からしておくことが重要であることも学びました。祭り班では細かい役割分担が出来ておらず、さらに6月あたりの時間配分が出来ていなかったため、準備が本番直前までかかり、練習が不十分のまま本番を迎えてしまいました。また、オンラインの難しさではありますが、唯一参加者同士で会話できるグループワークが終わってしまうと、それ以降の人と人とのつながりを作ることが難しく、そこが少し残念に思いました。

（文責：薬師川朋里 人間科学科3年）



＜森さん原島さんと＞

商店街

～ようこそすてきな通学路、六角橋商店街へ～

- 概要：私たち若者の成長を見守って生きた六角橋商店街のために今、何ができるのか、大切な通学路である「六角橋商店街」のこれからを考える。

- メンバー：土屋孝太、二岡侑子、山崎裕菜、井上丈市、平良航規
- 学生アドバイザー：村松勇祐、保科歩美
- 大人アドバイザー：野村浩・糸井勇（六角橋商業協同組合）
- 連携：六角橋商店街連合会

【学生の声】

この商店街の分科会を通して少しでも学生と商店街の繋がりができたのではないかと感じました。近くにあるが意外と知られていないイベントや学生達が求める商店街のあり方など様々な面で議論が盛り上がり1時間の分科会があっという間に終わってしまった印象です。あの時間だけでは六角橋商店街の全てを分かりきると言うことは不可能だと思うので、来年のフォーラムやその他にも機会があれば積極的に商店街に関わっていったらなと感じました。自分達のチームはこれからパンフレット作りが始まると思うのでフォーラムの延長線上として六角橋商店街の良さを皆さんに伝えられたらと思います。糸井さんにもたくさん助言などをしていただきましたが、これからはもっとお世話になると思うので継続してお世話になりますと言うことを伝えたいです。

（文責：井上丈市 人間科学科3年）



＜六角橋商店街糸井さんと＞



＜商店街の歴史を学ぶ＞

○概要：学童保育や塾など実際に子どもと触れ合うバイトする学生から子どものリアルな現状を聞き、コロナ禍における子どもの現状を知り、学生である私たちに何ができるか話し合う。

○メンバー：田崎葵、山本浩大、水野匠、高久李美、仲山雛奈／齊藤ゼミ（3年）

○学生アドバイザー：稲垣良昌、中島さえ、水野匠

○連携：ふれあいっこ三ツ沢

【学生の声】

今回の子ども分科会を通して良かった点は、子どもに対する理解を深め、大学生の私たちに何ができるかを話し合えたことだと思いました。コロナの影響もあり、大学生と子どもの関わりも少なくなっている状況で、子ども達が何を遊んでいるのか何を求めているのかなど、ゲストスピーカーの話を基に話し合い理解を深めることができた点が良かったと思います。また、子どもの事だけでなく、大学生が社会問題について話し合うことができ、私たちに何ができるのか、どんなボランティアがあるのかなど、フォーラムの目標でもあった

「大学生が一步踏み出すきっかけ作り」がしっかりできた点も良かったと思います。このフォーラムをきっかけに、大学生がボランティアなどに参加したり、積極的に何かに挑戦してくれることがフォーラムの成果だと思うので、来年再来年もフォーラムを引き継いでいき、大学生が話し合える機会を作り続けてほしいです。（文責：山本浩大 人間科学科3年）



<子どもチーム>

○概要：「デート中の食事代は、男性が多く払うべき？」などの疑問を、お金のやりとりなど身近にあるジェンダーの問題として考える。

○メンバー：相原剛、小豆畑太一、吉岡佑馬、

Liu Yang、さみず、Man Xinyi、荻野ゼミ

○学生アドバイザー：渡邊愁、大山奈桜

○大人アドバイザー：荻野佳代子（神奈川大学 人間科学部教授）

【学生の声】

このジェンダー分科会を通して、参加者がデート代と婚約指輪の費用の支払い方を扱うことについて様々な新たな視点を身につけもらったと感じました。デート代と婚約指輪の費用の問題だけではなく、参加者は身近なジェンダー問題についても、新たな広い視点を見つけることがうれしかったです。全体を通して学んだことは、オンラインで行うことが参加者側も運営側も難しい点があり、運営側が雰囲気をつくることや、参加者が発言する時に適切な反応をあたえるなどは

重要であることを学びました。また、時間配分の点やコンピューターのトラブルなどの設備は問題があるかどうかを事前確認することは重要です。準備時間が短かったが、当日本番までに十分に準備できたと思いました。はじめてユースフォーラムに参加して、不足があったと思いました。問題点を反省して活かして、ユースフォーラム以外のことにも役立てたいと感じました。

（文責：ManXinyi 人間科学科2年）



<ジェンダーチーム>

○概要：地域活動、ボランティアに参加したいけど、具体的にどんな活動があるのか、私に何ができるのか、そんな思いを形にする方法を探る。

○メンバー：山崎裕菜、田崎葵

○学生の声：リフレクションでは多くのことを学びました。

「信頼関係・連携が大切だということ」「仕事量のすり合わせを頻繁におこなうことは大切だということ」「『全体のテーマ（一歩踏み出す）を締めるという役割をリフレクションが担っている』という意識をしっかりと持って取り組んできたこと」などが挙げられます。ここで挙げた3つはいずれにしろ「しっかり」先輩サポーターやチャット、画面共有タイムキーパーも含めたチーム一丸となって取り組んできたからこそ学べたことだと思います。これらはよくできたことから学んだことですが、⑦で述べたような反省からの学びもあります。それは「分科会共有スライドの作成時間が十分でないとき」や「ミュートを外し忘れてしまったとき」

「プログラム内容をすっぱしてしまったとき」などの不測の事態を想定しておくべきだということです。ここは練習までする必要はありませんが、何となくでも考えておくべきだったのではないかと思います。（他にも時間が押しているときにどこのセリフを削るか等の想定など）成功からも失敗からも学べる事が出来て結果的に良かったのではないかと思います！

(文責：田崎葵 人間科学科3年)



＜オンライン上の参加者による寄せ書き＞



約160名の方にご参加いただきました。
ありがとうございました。

大人アドバイザーから

東田樹治さん

三枚地区社会福祉協議会
会長

今回、大学生と地元の方々の橋渡しを
させていただきました。
地元の方々が楽しそうに
大学生と交流している姿を見て、
このフォーラムは学生だけでなく、
関わった人たちにも大きな意味が
あることを感じました。
もっともっと色々な人に関わってもらって、
相互の理解が深まるといいなと思います。

高城芳之さん

NPO法人
アクションポート横浜
代表理事

今年のユースフォーラムも
オンラインではありましたが、
学生たちが地域への一歩を
踏み出すきっかけとなるあたかな場でした。
学生自身が自分で作ってみる、やってみる、
そして地域や参加者の思いに応えてみる、
コロナ禍で特に貴重な機会だと思い、
アドバイザーとして関わっています。
来年も今から楽しみにしています！

宮地悠希さん

神奈川区社会福祉協議会

大学生が知りたいこと、
やってみたいことを通して地域とつながる
きっかけになるユースフォーラム。
どんどん来てください！
地域も期待しています！

本橋俊則さん

神奈川区社会福祉協議会

ユースフォーラムに参加させていただき、
学生がとらえた地域の現場や課題を知ることができました。
新型コロナウイルス感染症の影響により、
準備の段階から対面での打ち合わせが難しくなるなど、
学生の皆さまは大変難しい状況だったかと思います。
そのような状況下でも、各分科会で準備を進めた結果が、
しっかり反映されていました。
反省点はあったかもしれませんが、参加された学生の皆さまにとって、
地域に向き合うキッカケとなれたのではないかと思います。
学生が自ら調べ、伝えることで、
同じ先代の若者に伝えることもあります。
この取り組みが学生の皆さまにとって、
今後の社会に出る際の糧になることを願っております。

原島隆行さん

六角橋地域ケアプラザ

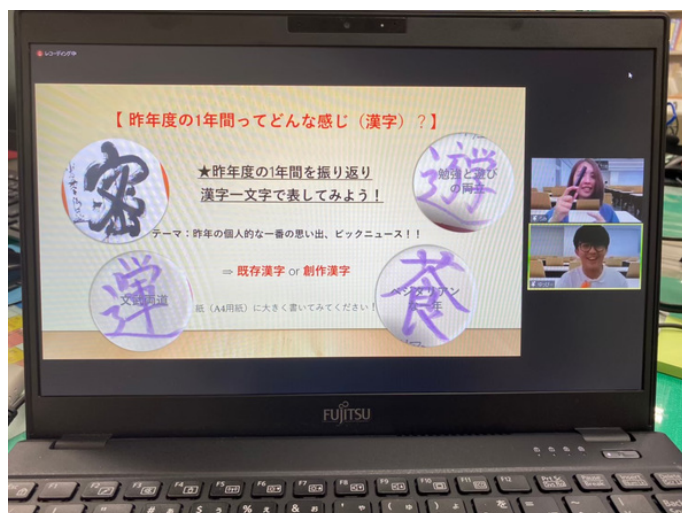
分科会を構成するところから携わらせて頂き、
オンライン中継等に挑戦できた事
とても嬉しく思っています！
《できたこと》《できなかったこと》も
たくさん有るかと思いますが、
ぜひ地域の方や仲間と最後までやり遂げたこの経験を
大切にいただければと思います。
本当にお疲れさまでした！！

サポート

ありがとう

ございました。

写真で振り返る ユースフォーラム



参加者全員を巻き込んだアイスブレイクも私たちが企画しました。



今年もオンライン開催！（来年は直接あいたいなー）
高齢者班は参加される高齢者の皆様に向けて
ZOOMの使い方講習会の先生として参加。



商店街班は六角橋商店街から中継



4年生も全面協力
先輩たちにたくさん助けてもらいました。





大人の方々に
たくさん支えて
もらいました。



子ども班は一人の先生役と教室の背景で学校っぽく!

ジェンダー班はゼミで参加!

短い期間ながらも企画を完成させました。



リフレクションの最後に記念撮影📷



リフレクションにて、
参加者の方々の決意表明と
感想を色紙に!

私たちも今後への思いを
綴りました。



午後にはコースで遊ぼう会!
2年生が企画しました🎉

おつかれさまでした💡

CREDIT

【協力】

社会福祉法人 神奈川区社会福祉協議会、片倉三枚地域ケアプラザ、六角橋地域ケアプラザ
三枚地区社会福祉協議会、六角橋商店街連合会、六角橋自治連合会
NPO法人アクションポート横浜、ふれあいっこ三ツ沢、横浜市神奈川区役所
神奈川大学 教務部資格教育課程課、人間科学部ゼミ（荻野ゼミ、齊藤ゼミ）、社会連携センター

本事業は、かながわ地域支援補助金支援事業(スタートアップコース)の
補助を頂きました

【主催】

かながわユースユースフォーラム実行委員会2021

【全体会】

高久李美(3年生)
井上丈市(3年生)
高橋侑佑(3年生)
中島さえ(4年生)
村松勇祐(4年生)

【高齢者】

濱田祐輔(3年生) ★
高橋侑佑(3年生)
佐々木和巳(4年生)
石川稚子(4年生)

【まつり】

薬師川朋里(3年生) ★
藤本幸(3年生)
小野榛奈(2年生)
渡邊愁(4年生)
大山奈桜(4年生)

【商店街】

土屋孝太(3年生)
山崎裕菜(3年生)
井上丈市(3年生)
二岡侑子(3年生)
辰口凜奈(2年生)
平良航規(2年生)
村松勇祐(4年生)
保科歩美(4年生)

【子ども】

田崎葵(3年生)
高久李美(3年生)
仲山雛奈(3年生)
山本 浩大(3年生)
水野匠(4年生)
稲垣良昌(4年生)
中島さえ(4年生)

【ジェンダー】

相原剛(2年生)
小豆畑太一(2年生)
吉岡佑馬(2年生)
劉揚(LIU YANG)(2年生)
陳天淼(CHENG TIAN MIAO)(さみず)(2年生)
満欣怡(MAN XIN YI)(2年生)
渡邊愁(4年生)
大山奈桜(4年生)

【アドバイザー】

齊藤ゆか
(神奈川大学 社会教育課程)
長浜洋二
(モジョコンサルティング合同会社)
高城芳之
(NPO法人アクションポート横浜)
宮地悠希
(神奈川区社会福祉協議会)
本橋俊則
(神奈川区社会福祉協議会)
東田樹治
(三枚地区社会福祉協議会)
原島隆行
(六角橋地域ケアプラザ)
益田麻衣子 ★
(神奈川大学 社会教育課程)
山崎 未玖 ★
(神奈川大学 社会教育課程)
★＝報告書編集担当

【協力】

荻野佳代子
(神奈川大学 人間科学部)

